

# Ciscoインターネットワーキング・オペレーティング・システム(IOS)

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[説明](#)

[歴史上の事実](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco Internetworking Operating System ( IOS ) は、インターネットワーキングに最適化された高度なオペレーティングシステムです。Cisco IOS® は、時間の経過とともにインターネットワークをコスト効率の高く維持できる、統合的な原理を提供します。これは、ハードウェアから切り離されたソフトウェアアーキテクチャであり、ネットワークインフラストラクチャ内でテクノロジー ( ハードウェアおよびソフトウェア ) が進化する際に、その変化に対応するように動的にアップグレードできます。Cisco IOSは、インターネットワーキングの頭脳、つまり複雑で分散したネットワークリソースと機能を管理および制御する高度にインテリジェントな管理者と考えることができます。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 説明

Cisco IOS の初期のリリースは、基本的にルータ指向の、他に例のない強固なシステムへと成長しました。プロシージャのセットとして配置され、任意のプロシージャが他のプロシージャを呼び出せるようになりました。この一体化された強固な構造では、データを隠す必要はありませんでした。その運用コードのほとんどは、構造的および運用上の相互依存関係を持っていました。

Cisco IOSリリース9.21 ~ 11.2は、Cisco IOSをモジュラコンポーネントまたはサブシステムに再設計するためのエンジニアリングの取り組みを表しています。階層の集合体とすることで、各サブシステムはそのシステム コードに対する独立したエントリ ポイントを持つようになりました。サブシステム自体は、組み込み (カーネル) システム内のさまざまな機能をサポートする離散モジュールとして定義されます。階層化されたサブシステムの設計により、Cisco IOS は、機能セットをさらに管理しやすく、容易にアップグレードできるように分割することが可能になりました。

Cisco IOS がポーティング対応に進化したことで、Cisco IOS 11.3 以降では、さらに容易に新しいプラットフォームにポーティングできるようになっています。さらに細かいレベルのモジュール性の同義語である防弾により、Cisco IOSの機能を他の機能やサブシステムにほとんど、またはまったく依存することなく厳密に定義できます。防弾機能により、Cisco IOSの機能/ソリューションセットをお客様の要件に合わせて構築できます。Cisco IOSが進化を続けるにつれて、お客様は固有の環境の要件を満たすために特定の機能を組み合わせることができます。

## 歴史上の事実

- Cisco IOS 8.3は、1990年代より前に最も普及したCisco IOSリリースでした。
- Cisco IOS 9.1 First Customer Shipped(FCS)は1992年12月。
- Cisco IOS 9.1(16)は、Cisco IOS 9.1の最後のメンテナンスリリースです。Cisco IOS 9.1ユーザには、1995年4月17日の時点でCisco IOS 10.0(9)または10.2(5)にアップグレードする必要があることが通知されました。Cisco IOS 9.17は、販売終了(EOS)およびメンテナンス終了(EOM)のマイルストーンに達しています。Cisco IOS 9.17(16)は9.17の最後のメンテナンスリリースです。Cisco IOS 9.17ラインには、これ以上の機能やバグ修正は適用されませんでした。

詳細については、以下を参照してください。

- [Cisco IOS ソフトウェア](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア リリースのタイプ](#)
- [定義されるリリース指定](#)

## 関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。